

巨大アートで終息願い



長岡花火の絵を描く松島菜月さん＝新潟市中央区

新潟市東区の美術作家松島菜月さん(23)が、新型コロナウイルス感染症の早期終息を願い、新潟ユニゾンプラザ(同市中央区)の窓ガラスに中止になった長岡花火や疫病退散に御利益があるとされる妖怪「アマビエ」などをモチーフにした絵を描いている。作品は6月中に完成予定で、松島さんは「たくさんの人に見てもらい、作品と一緒に写真を撮ってほしい」と話している。

松島さんは中学時代から本格的に美術を始め、現在は地域活動支援センター「アートキャンプてらす」(同市東区)を拠点に活動している。2月に新潟ユニゾンプラザで開かれたイベントで障害者アートの展示に参加。館内の窓に描いた作品が好評だったことから、ユニゾンプラザを運営する県社会福祉協議会が「ウイルス禍で落ち込む中、館内に彩りを与えてほしい」と続編を依頼した。

制作には6月初めから着手。「大好きな新潟」をテーマに1階窓の縦約3畳、横約10畳をキャンバスに下絵をせずに大胆に描いている。水性の画材を使い、中止になった長岡花火のフェニックスを

長岡花火、アマビエ大胆に

新潟・東区の松島さん「絵で元気を」

鮮やかに表現したほか、砂浜で「日本海夕日コンサート」を楽しむかわいらしいアマビエなども描いた。

17日には地元の小学生2人も飛び入りで参加し、松島さんの母尚子さん(52)とともに制作を手伝った。上所小6年の奥田日和さん(12)は「上手だなと思って見ていた。色塗りは難しいけど、教えてもらって楽しい」と笑顔で話した。

作品は2月に制作した作品と合わせ、建物の外からも鑑賞できる。松島さんは「作品に新潟のいろんなイベントを詰め込みたい。花火は中止になったけど、絵を見て元気になってほしい」と話している。

新型
ウイルス